

一吟徹心霊
一曲能興国

錦友…第305号

〈令和3年4月10日〉

・編集・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
・発行・
一般社団法人詩吟朗詠錦城会
東京都港区麻布十番2-4-14
電話:東京03-5484-3301(代)
〒106-0045



「あいつ」と私の日々

(一社) 詩吟朗詠錦城会相談役
詩吟朗詠錦城会流宗家

山元 錦城

令和3年も桜の咲く季節となりました。とは云え、気楽に桜見物の行える春でもありません。コロナウイルスのパンデミックが1年を越え、三密を避けマスクを付ける日々が未だに続いています。

東京・千葉・埼玉と神奈川県は感染症緊急事態宣言が続いています。(注・3月16日現在)頼みはワクチンのみのようですが、これもまだ、先のようにです。東京は7月にはオリンピック・パラリンピックの国家の威信をかけた事業が待っています。案じて、どうにもならないことですが、外国から大勢の人々が来訪、来日となると、パンデミックが変異ウイルスにより三波、四波と押し寄せるのではと思います。

皆様方にはお元気で日々を過ごされているとは思いますが、お大事にして下さい。まずは健康です。錦城会の事業は、昨年よりすべてキャンセルとなって、皆様とお会いする機会が無くなりました。寂しい限りです。事業の計画だけは事務局共々進めておきます。

詩吟・詩舞の日々の稽古はいかがですか？ 出来ている教場と出来ない教場があるようでしょうか？ 私、一週間に一度か二度本部に出かけますが、あとは机の前で、漢詩(中国漢詩・日本漢詩)、和歌、新体詩を36編の教本用に収集、作曲しています。あとは読書三昧です。テレビはCSテレビ、TBS ニュース300チャンネル・CNN ニュース302チャンネル

ル・BBCワールドニュース 306チャンネルで、世界のニュースが瞬時に入って来ます。世界の国々の様子も、昨今、ナシヨナリズムの方向に向いているようで、また争いの絶えることのない国々、クーデター等、おかしくなっています。特に気になるのは、地球の気象による災害(地震等)です。文明科学が進歩し過ぎ、地球が病んでいるのではないかと。3月11日、東日本大震災、10年過ぎても癒されるものではありません。東京大震災も近いと云われています。疫病・大震災は、大昔から世の中には絶えないものでした。昔は神仏をたのみ、呪術・宗教的職能者、いわゆるシャーマンの疫病退散祈願でした。今の宗教人は科学文明の進化に手をこまねいている

でしようか？ 今読んでいる本は、「世界のなかの日本宗教」で、知らないことばかりです。いかに浅学非才か自覚しています。年を取りすぎて時間がありません。この本の中で『和歌』についてありましたので、ご披露したいと思います。紀貫之の目論見には「仮名序」にあるように「和歌」という語を作り出すことよって、和歌と漢詩を対峙させ、和と漢とを対等化し、文化的日本を自立させること、言い換えれば中国的普遍文化に対する日本の個別文化の独立宣言も含まれていない。しかも、漢詩と和歌は対等と云うことになって自立した日本を立ち上げ売り出していくという政治的目的もあつただろう。だが時代を経て、鎌倉末期以降、さまざまな流派によって多様化した。『古今集』注釈の中に現代人の目から異様としか見えないような問答が現れる。(次頁へ続く)

本部の動き

11月28日 鹿兒島県本部の昇格審査

5日 茨城県本部の講習研修会と昇格審査

12月4日 常務理事会

(2・11・16より) (3・3・15まで)

冷泉家流とされる「古今注」の冒頭に「問いて曰く『今の歌を和歌と名付ける事、いかなる故ぞや』と、答えて曰く『天竺(てんじく・インド)の陀羅尼の梵語を模して震旦(しんたん・中国)詩賦をつくる。その震旦の詩賦を模して我朝(日本)の歌にあるによりて、和歌と名付けたる也。』此の義あらず」と否定、更に曰く、『二義に、もろこしの詩賦をヤワラゲたるによつて和歌という。それ故に漢土というも、われらが此の国よりはるかに思いやるおりにこそ、別々各々の国土にて通じ通ぜずと云う事もあれ、天朝の御代に天宮にて見給う時は皆天竺(インド)も大唐も御足下なれば、何事か、みそはなし給はざらん。何事か、かくれもあるべき。それは、あめの宮におわしましし時より、もろこしも天竺も皆、御足の下にて、見しり給う事也。』

ここには、紀貫之の理解や狙いとは全く異なる「和歌」の生成過程が語られている。
浄土宗中興の祖とも呼ばれた学僧聖阿(しょうげい)の『古今

今序注』になると、明確に『天竺の梵語を漢土にして翻訳するは、ヤワラゲ知らせたる也。其の漢語をなお日本語にして、此の国の語にヤワラゲたり。故に三国あい、ヤワラゲたる故に大和歌と云う』と記されるようになってくる。「和歌」は「ヤワラゲし歌」、「大和歌」は「大いにヤワラゲたる歌」という意味となる。

震旦(中国)は大国で劣等感を抱かざるを得ない。この対象に相対化を可能にした。天竺・震旦・日本と平等・対等とみなすのが、三国ヤワラゲ論の核であった。

日本文化の最も古く生まれた、そして優れた文学である「和歌」という語が、明治に生まれた現代詩人の新体詩(長歌)の出現により、三十一(みそひと)文字の和歌が短いただけで、「短歌」と云うようになったようです。「和らげたる歌」の「和歌」の価値観はどうなってしまったのでしょうか。日本に生まれて良かったとは思っていますが、日本は母国語を大切にしない国

になったようで、世界語である英語はこれからの世界で必要であることはもともとですが、日本語を話すから日本人なので、外来語の日本語化が進みすぎていると思います。小学校で美しい国語を教育しなければ、日本の固有の文化が消滅してしまいます。

私達は詩吟朗詠を通して美しい日本語に漢詩の訓読み、和歌・俳句を親しんでいます。常に自負心を持って大切に行っている毎日です。是非、国語の再生を念じています。

コロナウイルスの一日も早い終息を願い、皆様の健康を念じ、筆を置きます。ありがとうございました。

参考文献

吉川弘文館「日本宗教史(2)世界のなかの日本宗教」三二六頁・前田雅之先生著。
旧い文章『』の所は、旧かなづかいでしたが、読みづらいため現代かなづかいにしました。

◆一般社団法人詩吟朗詠錦城会 全国大会

・9月26日(日)

・函館市 函館市民会館

◆指導者講習・研修会

・2月24日(木) 25日(金)

・場所未定

◆催事ののご案内◆

(令和3年4月～4年3月)

◆本会主催 ◆本会後援

◆定時総会、指導者講習・研修会

・6月24日(木) 25日(金)

会

・石川県加賀市

あの日から10年

石巻市長の亀山紘様より、錦城会宛にお礼状が届きましたので、ご紹介します。

2011年3月11日

あの日 すべてが変わってしまいました

「行ってきます」と出てきた家も 「いつてらっしゃい」と見送り 見送ってくれた家族も見慣れた景色も さっきまで働いていた職場も 仲間も

どれか一つ欠けても立ち直れないような出来事を 一度にすべて失ってしまった人が あの日どれほどいたでしょう 現状を知れば知るほど 絶望と深い悲しみに暮れる私たちに 発災後すぐに 国や県 他市町村をはじめ 様々な企業・団体・個人の方々が 国内外から 沢山の手を差し伸べてくださいました

こんなにも 私たちを想ってくれる温かい手があることを 私たちは震災を通して知ることができたのです その温かい手があったからこそ 今日の私たちがあり 石巻市があります

私たちは 差し伸べられた手を “決して忘れてはならない” そう心に刻み 生き残った者の使命として 後世へと この震災を伝承し 手を差し伸べてくださった方々へ 感謝の心を忘れずに これからも歩んでまいります

震災から10年 復興完結まであと一歩となりました

10年目の区切りとして ここに石巻市民を代表して 心より感謝を申し上げます

令和3年3月

石巻市長 亀山 紘

京都散見

専務理事 草薨城輝

一日乗車券を買うと、京都市内の名所を巡ることが出来る。北大路、大徳寺の道路の反対側に建勲神社がある。小高い丘、船岡山に惹かれてお参りしたときは、御祭神はおろか創建者も知らなかったが、参道を若い女性が三々五々歩いてた。茶店で聞いてみると、御祭神がアメで取り上げられ人気が出たということであった。

西大路に平野神社がある。御祭神は平野國臣?と思つたが、平安の昔から桜の名所として知られた神社だそうである。

新熊野神社、新日吉神社という社がある。「新」と書いて、いずれも「いま」と読むが、源平騒乱の時代にお名前を見、騒乱の種もまいた後白河天皇(法王)が熊野に34回参拝され、もつと近くにあるといいのにと言われ神社が建てられたという。従つて「新」といつても千年近く昔のことであり、歴史の都羅如である。

舞台で有名な清水寺に「田村堂」というお堂がある。残念ながら、中を拝観することはできなかつたが、坂上田村麻呂の人柄に触れたような気がした。音羽の滝の前の道を行くとやがて山道になるが、清閑寺に着く。ここは、西郷と月照が憂国

の談義をしたところで、源平の時代まで遡ると悲恋の小督の局が剃髪させられ、京都恋しやと涙を流したところである。なるほど、遠くに京都の町が見える。しかし、小督は、今は最愛の人の傍らに葬られている。お墓に参拝することは出来ない。そのなぜかは、ご自身で確かめることをお薦めする。京都の紅葉は、橋の上からもみじを見下ろすことができる。東福寺が有名であるが、永観堂も紅葉の名所だそう。もみじの時期でなくともこの永観寺には足を運んで欲しい。このお寺が有名なのは「見返り阿弥陀如来」である。なぜかお顔を左に向けておられる。私は、『もう行っちゃうの?もつと拜んでいきなさい。』と言われたような気がした。このお寺にお参りして欲しいのは、日本最古の今様の詩碑が在るからでもある。

錦城流の基本(譜)が何故「富士山」か

『NHKの大河ドラマに取り上げられることになったらお墓が綺麗になった。』ということであつた。華やかな京都とは違い、京都の日常に触れることができるのが錦小路である。ただし、観光客でこつた返しているの注意が必要だ。錦天満宮の参道だから錦小路だが、面白いのは鳥居の両端が家屋にめり込んでいることである。一見の価値はある。伊藤若冲は、ここの出身である。頼山陽の墓所と書齋、詩吟を通じて日本史に触れている私にとって、興味の尽きないのが京都である。前文が長くなつたが、『錦友』をお読みいただいている大阪にお住まいの森勇二郎さんから、テレビで放送された石川丈山寺、石川丈山の人となり、業績、石川丈山作「富士山」をなせ詩吟詠錦城流の基本譜に制定したのかの経緯について知りたいというハガキが寄せられ、その回答が本稿の主題である。以下は、詩仙堂のホームページも参照して記す。

「詩仙堂」という名は、正しくは、曹洞宗の詩仙堂丈山寺というお寺だそう。しかも詩仙堂は凹凸窠(おうとつか凹凸)した土地に建てた住居)と呼ぶのが正しいそう。それが詩仙の画を掲げたことから詩仙堂と呼ばれるようになったということである。石川丈山は、天正11(1583)年、三河国泉郷(現在の愛知県安城市和泉町)の代々徳川(松平)家に仕える家に生まれた。慶長3(1598)年、徳川家康の近習となつた。大坂夏の陣で軍令に反して抜け駆けをし、家康の譴責を受け浪人となつた。その後、病気がちな母を養うため、紀州(和歌山県)の浅野家に仕官し、浅野家の転封に従つて安芸(広島県)で13年ほど過ごしたが、母が死去すると強引に退去し、京都に出て相国寺の近くに睡竹堂を作り隠棲した(寛永13年)。その後、洛北の一乗寺村に凹凸窠を建てて終の棲家とした(寛永18年)。

このとき、洛東の歌仙堂に倣い、中国歴代の詩人36人を選び肖像画を四方の壁に9面ずつ掲げた。そのため凹凸窠は、詩仙堂の名で知られるようになった。石川丈山は、江戸初期の武人であり、代表的漢詩人、儒学、書道、茶道、庭園設計にも精通していた。煎茶の祖ともいわれている。寛文12年5月23日(1672年6月18日)90歳で亡くなつた。次に、詩吟詠錦城流が「富士山」を基本(譜)にした経緯について記す。

山元錦嶺先生のお話

「富士山」を基本(譜)にしたのは、富士山は日本の象徴であり、日本中知らない人はいないので、初めの頃、流祖が全国を回つて指導するときに、初めての人にもわかりやすい詩であるため決められました。

金子城大先生のお話

私が錦城流を始めた昭和34年の時は、すでに「教本の1編の1番」は「富士山(石川丈山)」でした。当時を思い起こすと、錦城流基本譜が、故丸山城壮先生によつて、絶句の詩文4行を1行ずつ横にして、4段とし、7線を書き、節調に合わせて、流祖と検討されておられました。が、活版印刷(活版かどうか?)されていたと思います。錦城流の基本譜の誕生です。

これによつて、目から学ぶ事になり、耳学問だけではなく、覚えやすくなりました。吟詠を習う人にとつて、分かりやすい錦城流となりました。錦城流がなぜ、「富士山」を基本譜に採用したのか?日本と言えば富士山、詩吟と言えば富士山、剣詩舞と言えば富士山ではないでしょうか?

「コロナ禍で(その3)」

前号に続いて「コロナ禍で」思う事について今号も3名の本部長さんから投稿を頂きましたのでご紹介します。

思いつくままに そして未来に向かって

長崎県本部長 後藤 錦曜

真つ白な 雪道に 春風香る
私は懐かしい

東日本大震災から10年が経ちました。復興した街があり、先の見えない廃炉作業は今も続いています。復興に尽力されている皆様に感謝申し上げます。震災で犠牲となられた多くの方々のご冥福を心よりお祈りいたします。

会員の皆様には、お健やかに

お過ごしいただいていることと思います。コロナ感染予防の為、行動制限となり一年半、やっとワクチン接種が各地医療関係者より始まりました。昨年、コロナ禍にあつても、細心の注意を払い、行事を開催されたことを錦友を通して知りました。先生方の熱意に頭が下がると共に、何も出来ないことを、長崎県の皆様に申し訳なく思っております。本年は、錦城会会長・城戸城濤先生の「恐れ過ぎず されど侮らず」のお言葉を胸に、行事に当たりたいと思っております。

錦城流は、創流67年目です。

佐世保も錦城流の吟声が聞かれるようになり同じく67年目となります。初代山元錦城(旭錦)先生が、佐世保にて琵琶の演奏をされたことに由来します。初代の卓越した演奏に感銘し、即弟子入りしたのが祖母(夏秋錦穂)でした。当時の琵琶人を礎として、島原、諫早、長崎と県内に錦城流が浸透して行きました。

私は、祖母と生活を共にしていましたので、自然と吟に親んでいたようです。正式な入会は、昭和45年5月です。鹿児島から本村錦香(緑崇)先生が、詩舞のご指導に来佐されることになってからです。以来51年、錦城流の吟と舞、後に琵琶を学ばせていただいております。錦城流の格調高い吟詠と舞に魅了されているのもさることながら、宗家先生初め、全国の先生方や会員の皆様との絆は、家族と共に居るような心地好きで、有難いことと感謝しています。今、高齢化と共に、会員の減少が進んで残念でなりません。

錦城流の伝承は、最重要課題です。錦城流には、他の吟会に類を見ない琵琶舞物語等の特別番組があります。昭和50年、佐世保で開催された全国大会で「中国の春」が上演されました。

中国の東屋風雛壇に、お琴、尺八、十七絃の先生方、ハンドマイクを手に両袖より移動しながら

コロナに負けず頑張ります！

大阪府本部長 塩川 錦晃



塩川 錦晃

令和2年2月、錦友三〇〇号記念師範吟詠発表会が、新型コロナウイルスの感染拡大のため緊急事態宣言が発出されたことから、開催一週間前に中止となりました。また、緊急事態宣言に伴って、各地の演奏会やイベントは、ほとんど中止または延期となりました。今までも何も考えずに、普通に皆様にお会いし、普通に吟の発表会や大会が出来たのに、これが出来なくなつたのです。

大阪府本部の支部・道場の常時のお稽古も中止となりましたが、令和2年6月頃からは、感

ら吟じられる吟者の姿。驚きの演出でした。内弟子時代の、青森県の村上城修先生や、福岡県の東本錦伶先生の「尋胡隠君」に感動したことも思い出します。若い方に詩吟、詩舞、琵琶の伝統文化を知っていただき、習いたいと思つて貰えるよう努力していきたいと思つています。

染拡大が少し緩やかになつたので、7月ぐらいから少しずつ稽古を始めようになりました。

稽古を始めるにあつては、部屋の換気、手指の消毒、机やドアノブの消毒、マスクやフェイスシールドの着用、皆で大声を出すことは止めて、稽古は一対一で行い、真ん中にアクリルパネルを置きました。

令和3年には、また皆様とお会いできると信じ、10月には入念な新型コロナウイルス感染防止を施した上で、大阪府本部理事会を開催し、1年間の予定も決めました。

令和3年になると、またしても新型コロナウイルスの第3波がやって来て、東京では1日に2千人を超えるまでに感染が拡大しました。そして、東京圏のみならず、大阪や兵庫県にも再

度の緊急事態宣言が発出されました。

そのために、1月24日に予定していましたが、中止の止むなきに至りました。2月京都での師範吟詠発表会、5月の詩舞道全国大会も中止になつたので、私たちの常時のお稽古も中止するべきかと思いましたが、このままお稽古を中止してしまうと、これからずっと稽古が出来なくなるのではないかと

思い、感染防止対策をしっかりととして、稽古を続けております。ただし、稽古への出欠は、各自の自己判断とさせていただきます。

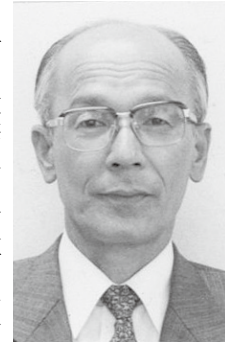
大阪府本部は、大阪府と兵庫県と奈良県が一つになつておりますので、緊急事態宣言の出ている大阪府では、会場が使用できない支部もあり、そういう支部分の稽古は中止となつております。兵庫県と奈良県では、会場が使用できるということで、稽古をしています。

今は詩吟を発表する場はありませんが、月3回の稽古の中で詩吟ができる喜びとマスクやフェイスシールドを着けてではありますが、人と逢える喜びを感じています。早く新型コロナウイルスが収束して、皆様とお会いできる日が来ることを心より楽しみにしています。

錦城流とは、半世紀

—アフターコロナを見据えて—

静岡県本部長 塩澤 城佳



塩澤城佳

前に遡ります。親師範・草薢城輝先生の呼び掛けが契機でした。当初は、前向き・慎重論が交錯して俄かな意見統一は困難でした。

静岡県護国神社（静岡市）境内に殉職救護員の慰霊碑が建立されています。昭和50年11月、除幕式に当たり、流祖自ら碑前に於いて吟詠されたのが『捧従軍看護婦戦歿者霊』（22編）です。これを記念して会員有志がこの詩碑を供え、毎年6月に行われる慰霊祭の折に、県本部長による献吟慰霊を続けています。

私は、NHKカルチャーラジオ『漢詩をよむ』（土曜夜8時30分）を聴きます。教本掲載詩のときは、嬉しくて、講師の解説に聴き耳をたてます。加賀美アナの朗読は、さすがプロと聞き惚れます。余韻に浸りながら錦城流との来し方を辿りました。日誌を追いながらアルバム『詩吟を友に』をみると、あれこれが印象深く蘇ります。筆頭は、一昨年の全国大会（静岡）です。コロナ感染の数か月前でした。顧みると、大会が県本部の話題に浮上したのは、開催の3年

ややあつて、未開催県は、全国でも僅か数県に止まる中で、本州の中央に位置し、交通至便で温暖な静岡が有力候補と知りました。同程度の会員数でも開催した他県の実例をみて、私たちの『やる気』があれば出来るとの認識のもと、郷土のPRのこよない機会と捉えて、引き受

けの機運盛り上げに注力しました。2年前に念願の会場（静岡市民文化会館）を確保できました。以降の準備は、経過にあわせて自らシナリオを創る過程でした。1年前の夏、準備が佳境に入った時、渡邊本部長が急逝、遺志を継いで肅々と作業を進めました。『準備の現況・今後の取組みと課題』について情報を共有化しながら、恙無い大会となる事を祈りつつ開催当日を迎えました。

出吟者三五〇人をお迎えし、観客と合わせ八〇〇人の一階席がほぼ埋まりました。県本部10周年・3支部結成40余年、50

に合わせ、令和改元の記念すべき年の開催となり、次なる大会に繋げられました。県本部会員ひとり一人のこの上ない喜びです。その陰には、総本部のご指導、隣接県、東京師範会のお力添え、道南・茨城県本部様の助言等々を頂きました。ここに記して感謝を申し上げます。

コロナ禍にめげず工夫を凝らして稽古しておられる各地の実例があります。私たちも会場の確保可能な支部・教場は、三密回避はもとより、フェイスシールド・アクリル板・手指消毒等の対策を施しながらアフターコロナを見据えて稽古をしています。本号が届く頃は状況好転をひたすらに祈ります。

秋の叙勲で藍綬褒章を授賞

名古屋千種支部で支部長を務める総教師範の伊藤錦莒先生は、昨年11月3日の文化の日に、永年の保護司活動の功績を認められ、藍綬褒章を授賞されました。

授賞の際は、新型コロナウイルスによる三密規制のため宮中での天皇陛下の拝調、授賞も中止になり、一カ月以上遅れて12月末にやっと賞状が届き、名古屋で

新入会員の紹介

11/24〜3/10

- 神辺支部 井手彩子
- 大隅道場 尾中千代江
- 鹿児島支部 前園エミ子 松下 治子
- 水戸支部 豊原洋子 安部亜由美
- 守山支部 東出文子 藤田喜代子
- ユニオンサービス吟詠部 榎川 尚久 山中秀朗
- 松浦支部 岡田洋次 水田妙子
- 世田谷支部 石塚 篤 尾藤弘子 薄倉雄一郎
- 串木野支部 峯元慧子
- 大和道場 永島公子
- 今泉延命寺双盤講保存会吟詠部 横川 誠 本間國範 根本泰子
- 沼隈支部 箱田三和子
- 気仙沼支部 横田八代子
- 長崎支部 山本佳寿江
- 串木野支部 木場和代
- 野洲支部 田中佳美
- 有家支部 山崎幸子 安藤征子
- 玖珠支部 幸 梨香 岩本里穂
- 伊藤先生は、家業の書店経営の傍ら、子や孫たちの養育、自身の趣味（琵琶・茶道）にも積極的に取り組んでおられます。そんな中で今回の授賞は、先生のためまぬ努力の賜物であり、心から敬意を表したいと思
- います。会員で計画しているお祝い会が、新型コロナウィルスのため延期になったので、一日も早いコロナの収束を願っています。
- 錦城会会員の減少が続く中、先生には健康に気を付けられて錦城会の発展のため、ご尽力賜りたいと思います。
- (名古屋千種支部 山田城篤)



名古屋千種支部で支部長を務める総教師範の伊藤錦莒先生は、昨年11月3日の文化の日に、永年の保護司活動の功績を認められ、藍綬褒章を授賞されました。

授賞の際は、新型コロナウイルスによる三密規制のため宮中での天皇陛下の拝調、授賞も中止になり、一カ月以上遅れて12月末にやっと賞状が届き、名古屋で

述懐 (思いつくまま)

道南本部専務理事 村上 城修

今年の元旦、道南本部函館支部長であり広報担当の竹内城泉師範からお電話を頂いた。道南本部機関紙「絆」を出したい、専務理事として投稿せよ、との申し出だった。賛同了解し、久々パソコンに向かい回想した。すると、古稀である私と、詩吟、錦城会、道南本部とは何だったかを思い返す貴重な時間となった。支部長には良い機会を頂いたと感謝したい。

出会い

私は大学1年生の春、18歳で錦城会に入会した。大学で詩吟部に入部、その担当顧問で師範が草薙城輝先生であった関係で、必然的に錦城流の門を叩くことになった。部活動のほか、週1回、火曜日の夜、世田谷教場へ稽古に通った。そして、そこが錦城流宗家宅であり、錦城会総本部だった。そこには菊池錦遊(現・岩堀錦遊)さん、錦郷さん姉妹や沢山の社会人の方々が稽古に通っていた。ご指導は、なんと流祖だった。流祖は、私が学生だったからか、先の戦争で亡くなった若者や学徒兵に想いを馳せ、篤く愛国心の大事をお諭しくださった。

部活動は充実していた。沢山の友情も培った。学生時代の友情は終生色褪せることはない。再会の機会はさほどないし、すでに幽明境を異にした親友もいるが、心には常に思い出とともに存在する。

その大学生活も卒業式が間近に迫ったある日、東京に残留すると決めていた私に、総本部からお声が掛かった。内弟子となり詩吟の芸道を深めてみないかと。私は、身体の不自由な子供たちの通う養護学校の教員資格を取得する目的で、東洋大学の夜間部に通うことに決めていた。そこで、「住み込まなくてもよければお願いします。」とお返事申し上げた。

それから5年、流祖のご指導を仰いだり、流祖のカバン持ちで全国を回ったり、遠藤城啓現東京都本部長、磯野城司氏等とトリオで連吟の舞台を何度も踏ませていただいた。将に詩吟三昧の5年間だった。

住み込みの内弟子方は、まるで兄弟姉妹のように温かい絆で切磋琢磨してくださった。そして、総本部には、夜になると錦城会の役員方がそれぞれ会務遂行のためにお出でだった。流祖

をトップに、錦城会を盛り上げ、組織化させた、そうそうたる方々を私は間近で拜見できた。役員方はそれぞれ、敗戦ですっかり自信を無くした国民に、詩吟を通じて日本の良さ、日本人の精神の気高さに気づいてもらいたいという、骨太のメッセージをお持ちだった。

このように、東京での生活は、流祖との出会い、仲間との出会い、全国の師範の方々との出会いという一生の財産をいただいた9年間だった。18歳で詩吟を選択して以降、末広がり運命が展開できたと言っても過言ではない。

詩吟の普及活動

人物との出会いが人生を左右するように、時代の変化は、生活様式や仕事にも大きな影響をもたらす。可能な限り時代を先取りして、進取の精神で詩吟を普及させたい。

中学生の頃、民放のテレビ番組で「明治天皇」というドラマがあった。スケールの大きさと、「明治天皇御製」をテーマ曲に朗々と歌い上げていたのが印象的だった。そしてドラマの中で「明治天皇御製」の朗詠がバック音楽として流れたこともあった。或いは、テレビドラマの「上杉謙信」や「白虎隊」でも詩吟が効果的に使われていた。また、中学校の国語の先生が授

業中、中国の漢詩を吟じてくださった。かく言う私も、郷里の青森で私立高校の教員となって以降、担当した授業で詩吟を吟じたり、詩吟部を創部して生徒を指導したりした。職務上、町に教場は開設できなかったまでも、地域社会へ詩吟をアピールする活動は現在も続けている。

津軽の風土と詩吟

青森県は、よく演歌では雪、厳寒の荒海、侘しさ等で紹介されている。そして、そういう厳しい気候風土に耐えているからか、津軽人の気質は、津軽民謡やねぶたにその特徴を見ることが出来る。ねぶたは、大袈裟で派手、そのくせねぶたの踊り手は恥ずかしがり屋で、顔を編笠で隠す。津軽民謡とはいえば、発声も、節回しも常人は真似ができないような歌い方をする。つまり、寒さに耐え、貧しさに耐え、じつとこらえて生きていくから、負けず嫌いで、熱中する物事には徹底的に取り組む気質なのだと考えられる。

私の現住所は青森県平内町です。「初代高橋竹山」生誕の地だ。ご存じのとおり、津軽三味線の名演奏家で世界的にも名声を馳せた人である。彼は盲目だった。それで親が食べていけるようにと、幼少時、津軽三味線を習わせた。彼は河原乞食のように、木戸口に立ち、演奏をしてお

をいただくという生活を長年続け、一時代を築いたのである。その彼が「わたしは食うために稽古をした。わたしにはこれしかない」と、言う。一流を極めた方の珠玉の言葉である。

オンライン

それにしても、近年の錦城会の会員減少のみならず、詩吟人口の高齢化と激減は大きな問題である。詩吟を廃れゆく芸能にしたくはない。もっとメディアは吟詠家や吟詠ファンを取り上げてほしい。難題であるだけに解決の糸口はそんなに簡単には見つからないが・・・。

最近、私はコロナ禍の中で、やむなくオンラインで行う会議を体験している。在宅のまま、組織のメンバーとスマートフォンで話し合いをする方法、テレビ会議である。学校の授業や会社の仕事も在宅で行う時代になってきた。そこで、錦城会の方々ともインターネットやスマートフォンで情報交換や話し合いをしたいものである。会議はもとより発表会も可能ではないだろうか。道南本部には、竹内城泉師範という私よりずっと若い中堅がいる。彼の研究心と実行力に期待している。「先ず隗より始めよ」で、進取の精神で詩吟と向き合う第一歩になればと思っている。

楽しいひと時、近江八幡支部温習会

新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない中、躊躇の声もありましたが、久しぶりに仲間と一緒に吟じたいとの要望が強く、令和2年10月31日(土)、一〇〇人以上収容可能な金田コミュニティセンター多目的広場をお借りして、温習会を開催しました。



当日は、会員36人中30人が参加し、会場入り口で体温を測定し、手を消毒してマスク、または当日配布したフェイスシールドをし、密を避けて席に着きました。演台には、プラスチック製の衝立を置き、吟詠の後には一回一回マイクを消毒するなど

万全の態勢で実施しました。

会員の皆様は、最初に「富士山」を合吟した後、ひとり一人得意の吟題を大きな声で楽しみながら吟じていました。また、久しぶりの再会でもあり、マスクをしながら会話が弾み、日頃の自粛ムードから解放されるような一時を過ごしていただいていたと思います。

いろいろな工夫をしながら、会員の皆様が一堂に会し、笑顔で会話をし、自ら吟を詠じ、仲間の吟詠に耳を傾けるといふ機会を今後も作っていただくとともに、大変大切なことだなあと痛感しました。このような時だからこそ、詩吟の素晴らしさが会員間で再確認されるのだと思います。次回は、初吟会の予定です。楽しみにしています。

(近江八幡支部 中江城義)

◇組織体長の変更◇

名古屋中支部 (愛知)

支部長 山内城俊

阿久根支部 (鹿児島)

支部長 坂元錦歌

広島南支部 (広島)

支部長 豊岡錦敬

三菱化学OB吟詠部 (神奈川)

吟詠部長 三浦城範

松浦市志佐小学校で 詩吟講座開催

令和2年11月20日、午後1時より、小学校に於いて詩吟講座を行いました。松浦市文化協会の活動において行った移動文化祭の一環として行ったもので、我が国固有の伝統文化に触れる機会を作り、児童の豊かな感受性を育み、青少年の健全育成に寄与することを、いま一つに、この伝統文化の維持・継承のために行うもので、俳句、琴、

尺八、三味線、茶道、華道、日本舞踊、詩吟、歴史の団体で行いました。

詩吟は、5年生15名の指導を行いました。先ず、漢詩の勉強をして、会員5名で「富士山」を吟じた後、詩の意味、内容を説明学習した後、発声のコツ、声の出し方などを指導し、全員で吟じました。

何度か吟じた後は、独吟出来る児童もいて、詩吟に関心を持つ児童もいました。今後も機会があれば続けたいと思います。(長崎県松浦支部長・黒川城廣)

コロナ下、48組が朗詠

去る12月6日(日)、水戸市の「ホテルレイクビュー水戸」の「ホテル本部の温習会を開催しました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、ホテル側と一体となって、「検温」「手指の消毒」「座席の配置」など、「三密」回避とともに、吟詠者用のマイクには、専用のカバーを着け、10人毎にマイクを交換、更に演壇から1メートル前に飛沫対策用の衝立を設置するなど安全確保に留意し、会員の協力も得て、無事完遂することが出来ました。



なお、温習会には、会員からの呼び掛けも含め、8名もの見

宗家・山元錦城先生には、前日の12月5日午後には、準師範の師範の「資格審査」と師範への指導を行っていただき、当日6日は、午前10時からの「温習会」をお聴き頂いた後、一緒に食事

◇新師範の紹介◇

雅号	県名	取得日
村上錦星	(広島県)	2・11
小菅城弘	(滋賀県)	2・12
池上錦世	(滋賀県)	2・12
神山城理	(滋賀県)	2・12
西津錦彩	(滋賀県)	2・12
吉田錦己	(滋賀県)	2・12
岡田錦翔	(滋賀県)	2・12
杉本錦節	(滋賀県)	2・12
藤本城修	(滋賀県)	2・12
芳本錦雅	(滋賀県)	2・12
高山城富	(広島県)	2・12
三重錦寿	(広島県)	2・12
上村城清	(鹿児島県)	2・12
若松錦洋	(鹿児島県)	2・12
吉原城元	(鹿児島県)	2・12
松元城賞	(鹿児島県)	2・12
西山城洲	(鹿児島県)	2・12
上大園城楓	(鹿児島県)	2・12
吉野城雨	(鹿児島県)	2・12
中島錦邑	(鹿児島県)	2・12
根子城清	(茨城県)	2・12
砂川城山	(茨城県)	2・12
萩谷錦政	(茨城県)	2・12

会にご参加、午後には、「講演」と2日間にも渡り、ご指導を頂き、有難うございました。

(茨城県本部事務局長 千葉城園)

リハビリに詩吟を頑張る会員

この原稿を書いているのは、1月。新型コロナウイルスの収束もままならず、年が明けてしまいました。北海道南地区のお正月、お節料理といえば、一般的なお節料理とは別に、鯨汁・魚漬け・枝豆を塩で漬けた豆漬けなどがあり、大晦日に実家などに集まり、一年の労をねぎらい新年を迎えます。12月に入ると店頭には塩鯨が並び、越冬用に塩漬けたフキ・ワラビ・筍はじめ色々な野菜に凍み豆腐を入れての鯨汁。

一昨年の暮れ、大晦日に我が家に届けてくださると約束した料理の得意な男性会員が、夕方になっても見えなく、断念して年越しを始めました。1月に入り、ご家族からの連絡で突然の脳疾患の手術だと知らされ、驚きました。

始めて面会できた時は、麻痺と言語のリハビリ中でした。2回目の面会には「先生」と呼んで下さり、今度は教場の皆と来るから頑張つてと約束しました。2月には新型コロナウイルスの感染防止のため、ご家族の面会も禁止となりました。

4月になると、彼は「自宅で家族と話せばそれで良いから！」と反対を押し切って退院

しました。通所リハ、自宅リハのご本人の努力は想像を絶する頑張りでした。言語リハのための自宅での詩吟の稽古では、「詩吟もカラオケも全部忘れて思い出せない」と言う彼に私は、「身体が覚えていると思うよ」と…。7月に入り、稽古を始める機会が訪れ、「最初は、以前温習会で発表した吟からね。」と吟じてみると、全く忘れてなく、二人とも驚きと喜びで手を取り合つて歓声を上げました。

半年後の今、詩文も間違ふことなく、しっかりとした発声、感情も伝わってくるこの嬉しさ。諦めることなく稽古を続けたご本人とご家族に、教場の皆さんに、そして自分にも拍手を送りたい！

今年の全国大会は、北海道函館市で開催予定です。是非、実際にして頂きたいと願っています。ご存じの通り、情緒あふれる街並み・旨いもの萬齋・良いことづくめの函館、そして、函館名物いか踊り、是非是非、懇親会も実現出来、いか踊りも全国の皆様と踊ることが出来たら、この上ない幸せです。函館をお待ちしております。

（函館支部・竹内錦鈴）
いか踊りは、次号で紹介しします。

女優秋吉久美子さんが 錦城流詩吟を趣味に

錦城流・菊池錦郷総師範に指導を受けていらつしやる秋吉久美子さん、すでに3編まで学んで「やつと杜甫に会えた」と教本まで掲載されている。詩吟の魅力を一ひとの詩の時代の中にひとり入り込み、声を出してドラマを演じられるところが楽しい」「趣味に没頭するひとときは、大事な学びの時間」・・・と。

さすがに長い年月、女優という道を歩み、また一方で早稲田大学院に進み、公共経営修士（さまざまな視覚から新しい公共の在り方を考える）等という崇高な学びをなさる方の詩吟に対する捉え方、私たち会員も学ぶところが多いいと思います。是非これからも永く詩吟に触れて頂き、いろんな事を発信していただきたいと願っています。

実は、「クロワッサン」という雑誌（株）マガジンハウスを買ってみたら、秋吉さんの記事が掲載されていましたし、昨年12月放送の「トップランナーの肖像」という番組でも秋吉さんの人となりを知ることが出来

した。錦城流の詩吟を学んでいただき感謝をしている一人でございます。

（福岡県本部長・東本錦怜）

「好きな漢詩が学べて芝居にも役立つ。」

「中学生の頃から漢詩に興味があったのですが、たまたま妹が詩吟をやっていた、しかも雅号までもらっていると聞き、私も急いで始めました（笑）。詩吟の魅力は、漢詩が学べて、声が出せて、集中できるのはもちろん、過去の中国にも平安時代にもタイムトリップできるところ。また、好きな詩だと感情移入もできるので、お芝居のトレーニングにもなるんです。ひとの詩の時代の中にひとり入りこみ、声を出して、ドラマを演じられるところが楽しい」

師は菊池錦郷氏。びっしりと書き込まれたテキストは、「3冊目にして、やつと杜甫に会えた！」と秋吉さん。

編集後記

皆様のご協力のおかげで、久しぶりに8頁の錦友になり、次号に回した原稿も出てしまいましたが、感謝しています。

緊急事態宣言も全国すべてで解除になりましたが、気を緩めることなく感染防止に気を付け、予定通りの行事が全て開催され、全国の吟友にまたお会い出来ますことを願うばかりです。

「詩吟は漢詩が学べるし、西郷隆盛だつたり、橋本左内だつたり、そういう偉人たちが事に当たつて書いた句を吟じることです。その当時の心境にも触れられる。書は、何の字を書くかというところに芸や知性が問われるし、ヨ方は筋肉の動かし方について毎回新しい発見があるのが楽しいんです」